



114
A1229



永價騰貴ヲ豫防スル之建議

今般大改大臣ヨリ御密達之書面ニ依テ惟
ニミレハ大久保全權弁理大臣ノ支那ヲ應
答ノ模様ニ依テ速ニ交戦之御議ヲ敬察ス
右事件ニ就テハ諸大臣及ヒ地方官等ニ於テ種々
紛議アルヲ聞ケリ下官等ニ於テ考フルニ事至此
豈前日之事ノ可否ヲ贅論スルヲ要センヤ今日之
事無他日本全國之カヲ一ニシテ以テ必勝ヲ期スルニ
アリ若シ遂ニ敗ヲ取ルニ至ルトキハ隨テ前日之事
ヲ可否スルノ論復天下ニ滿チ國家不復治

系
買
紙

大正十一年四月
限侯爵郵寄贈



3776



ルベシ故ニ必勝ヲ期スルノ策ヲ急務トス然レバ此
 必勝ヲ期スル策何ソ則一ハ募兵一ハ徵金一ハ
 内國人心ヲ一ニシテ速役諸軍ヲシテ内顧ノ憂
 ナカラシムルニアリ而シテ其募兵与徵金与下官自ラ
 斷見アリト雖モ元是今既ニ外役アラントスルノ際
 ナレハ海陸軍大藏ノ諸卿ニ於テ疾ニ注意深謀
 アルベシ故ニ今此ニ贅セス只彼ノ内國人心ヲ一ニ
 スルノ一部分ニ就テ僅カニ斷見ヲ呈ス抑モ今般
 ノ事一旦戦ヲ交ヘ速ニ勝敗ヲ決スレハ論ナレ若
 數月乃至一年ヲ歷ルニ至ルトキ大ニ憂フヘキモノハ

米價ノ騰貴ニアリ去ル戊辰己巳ノ年石十三圓
 ニ至ル今年ノ事亦視ル可レ早ク之ヲ處置スル
 ノ策ヲ立テサレハ人民ノ困難救フ可カラサルニ至リ遂ニ
 内國人心ノ沸騰此ヨリ萌ス而シテ元是凶作米
 ニノ之シキノ為ニ因ルニアラス外役ノ際米商唾手ノ
 計即人心ノ沸騰ノ為メニ因ル故ニ之ヲ處分スル
 必策アリ此策何ソヤ他ナレ早ク政府ニ於テ米價
 常平ノ權ヲ有スルニアリ之ヲ有スルノ策何ソ則今
 年詮議ノ次第アルヲ以テ更ニ天下ニ令シ地租
 皆米納セシメ各府縣ノ倉廩ニ充テシメ而シテ各

地方官ニ注意セシメ其民間米價ノ騰貴ノ甚シキニ際スレハ其機ニ投シテ之ヲ糶賣シ又之ヲ止メ隨テ糶シ隨而止メ遂ニ彼ノ米商啗手ノ勢ヲ挫キ若シ假令ハ浪華騰貴甚シキトキハ其便宜ノ府縣ニ令テ下シ其所蓄ノ官米ヲ浪華ニ移シテ糶賣シ東京騰貴スルトキハ亦東京ニ移ス等ノ策獨大藏卿ノ掌中ニテ試テ下官管下ヲ以テ考フルニ凡ソ近江ノ全國ニ所生ノ米凡ソ實石七拾万石トス此貢額則チ三十五万石以上ニ居ル然レハ全國ノ米半ハ官倉ニ納メテ常ニ自

由スルノ權ヲ有ス管下ノ米價ヲ常ニ平スル難キニアラス然ルニ于此ニツノ所憂アリ其一ノ所憂ハ昨年来既ニ米金騰貴ノ令テ下シ民大ニ便ヲ得タリ今年變シテ皆米納ヲ令ス一度ニ便ニ就クノ民復其不便ニ就クヲ不好多少苦情ヲ生スベシト雖モ米價騰貴ノ際貧民食料ニ苦ミト只其本来宜シク納ムハキ義務アルモノヲ納ムニ少シク不便ニ苦クト其難易孰与ソヤ且若シ弥實際米納ヲ為ス可カラサル地方アレハ特別金納ヲ許スノ寬典ヲ置キ或ハ此江列ノ如キ國ノ中央ニ

江湖ヲ抱ク如キノ地方ニ於テハ彥根大溝西大路
水口其他旧藩々ノ出張所等元官倉存置ノ
向ニ於テ其各地近傍便宜ノ郡村ヲシテ納メシメ
ハ格別ノ勞苦ナシ又其一ノ所憂ハ今年俄ニ皆米
納ヲ令スレハ米高ヨリ之ヲ視ルトキハ官前途米價
ノ騰貴ヲ察シ故ラニ米ヲ官倉ニ蓄ヘ其高價
ニ投シテ之ヲ賣リ洪利ヲ謀ルニ似タリ因テ遂ニ奸
商ヲ手ヲ結ンテ當時ノ價ヲ維持シ格別ノ
騰貴ニ至ラシメサル乎或ハ又今年俄ニ官倉ニ
充タシムルヲ以テ民間流通ノ米高昨年ニ比スレハ

半ヲ減スルヲ以テ口實トナシ故ラニ騰貴セシムル乎
此ニ策ヲ出テス然ルニ若シ前ノ一策ニ出ツレハ
政府固ヨリ所好ニシテ即皆米納ノ令ヲ施スノ詮
アルナリ第ニノ策ニ出ツトキハ則チ彼ノ糶賣
變化ノ計ヲ以テ之ヲ挫キ遂ニ常平ノ權力全
ク有スルニ至ルベシ豈敢テ憂フルニ足ラシヤ又
或人ノ説ニ吾カ邦米價騰貴スルトモ決シテ
憂フルニ足ラス如何トナレハ國內米價騰貴ノ
際ハ外國ヨリ輸入シ自然平均スベシト此説
固ヨリ理アリ雖然其外國輸入ノ米ハ即支那

米ナリ今支那吾邦ト事アリ吾邦ノ米價
沸騰ニ苦ム則チ支那ノ幸ナリ豈ニ吾邦ニ輸
入セシヤ若シ他國ノ米ヲ歴テ輸入スレバ支那亦
他國一切ノ輸出ヲ禁スルト必セリ且支那日本ノ
騰貴ヲ幸トスルノミナラズ自國ノ騰貴ヲ防ガル
ヲ得ス然レハ支那政府ニ在テハ一切米穀ノ輸
出ヲ禁スベシ右條件ハ只邊隅地方官之見
即局外之迂論ニシテ固ヨリ時事ニ適セス
政府天下ノ上ニ於ケル自ラ實際ノ別計ヲツテ
此局外ノ迂見採用ニ可ラサル乎与雖モ憂

慮不能措謹而鄙見ヲ呈ス若シ萬一モ
採用ヲ賜ハレハ早ク御處分アラシム事願ニ
不堪ナリ頓首謹言

明治七年
八月廿九日
滋賀縣令松田道之



内務卿伊藤博文殿
大藏卿大隈重信殿

